

# 民俗資料館だより

第13号 2006. 3. 31

発行 加茂市民俗資料館 電話 0256-52-0089

住所 加茂市大字加茂229-1 FAX 0256-52-0089

## 親しまれる民俗資料館を目指して

加茂市民俗資料館長 中 滝 孝 明

皆様方には、日頃民俗資料館をご利用いただきましてありがとうございます。

当民俗資料館は、杉木立やユキツバキなど自然環境に恵まれた加茂山公園内にあり、見学して頂くには最適の場所に位置しております。

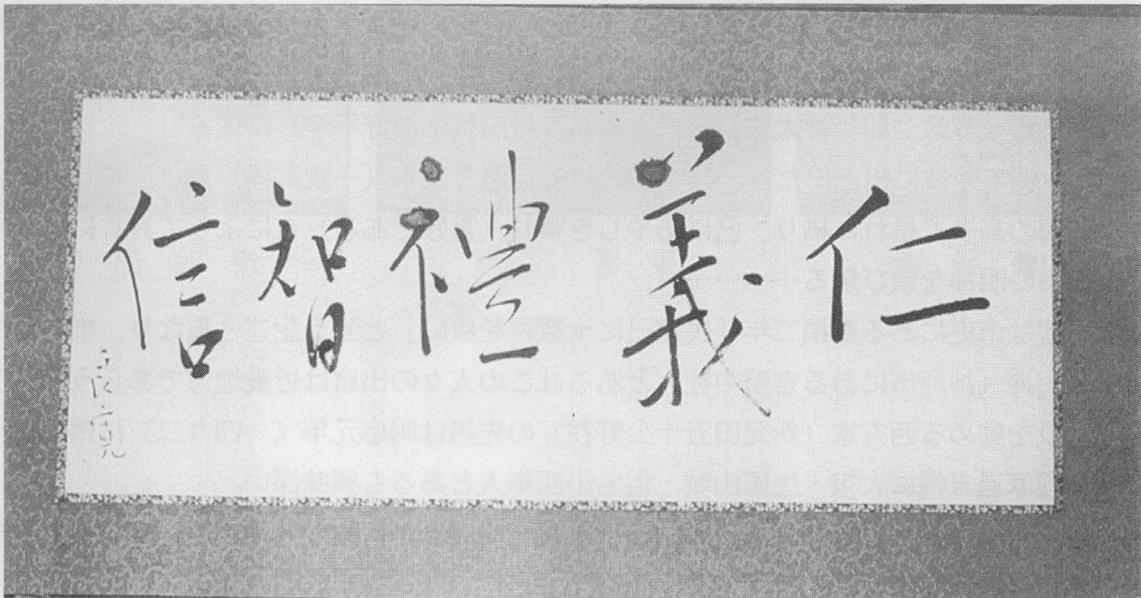
現在全体の収蔵品としては、約 20,000 点ありますが、そのうち約 1,200 点を館内に常時展示しております。展示品は、加茂の祭り、歴史、古文書、また市内から出土した石器や土器などから、加茂の産業の歴史に関連した建具の製造工程や木工の特産品、漢方薬の製造器具、加茂縞の機織り機、陣ヶ峰瓦、紙すき用具など、いずれも日常では見る機会のほとんどない貴重な資料ばかりとなっています。

また去年は新しい試みとして、当館で所蔵している拓本を加茂の地区別に分類し、5回にわたって特別展示会を開催しました。好評の古文書講座、歴史講演会、特別歴史講演会の継続も含め、いろいろ工夫を凝らしながら皆様方に親しまれる資料館を目指していきたいと思っております。

どうか、皆様方におかれましては、今後ともお気軽に当資料館をご利用いただきますようお願い申し上げます。

### 加茂の文化財紹介

良 寛 遺 墨 加茂文化会館所有



## 鵜森若宮八幡宮格天井絵画発見経過について

加茂市文化財調査審議会委員 丸山 朝雄

物心が付くようになって幾度となく眺めてきた格天井の絵画……絵について全くの素人である私にも、たった今跳び上がった様さまと思われる色彩鮮やかな鶏の絵、風雲急を告げ躍動感溢れる龍の絵、又花卉が今にも翻こぼれ落ちそうな牡丹の絵等々心引かれたのは著名な絵師達の作品であったが故と識った時、少なからず興奮を覚えた。

何故ならこの事を村人、氏子は勿論宮司の田代太夫すら知らなかったからである。

平成十年十月二十日、隣り新飯田地区商工会議所主催「有願禅師（良寛和尚の朋友、たのも田面庵々主）」の遺墨展を、帆刈喜久男（市史編纂、近世部会所属文化関係担当）先生にお話したら是非見たいとの事でご案内したが、準備が出来たはず時間潰しの積もりで鵜森では旧家の知野太左衛門宅（口伝に依れば宮司の田代氏が鞆むらじ脱ぎをした折、神職であると聞き、自宅上隣に一町歩近くの土地を提供されたと云う）を訪ねたら、孫の子守でお宮様との事で境内に出向いたところ、先生曰く「在郷にしては珍しく古風で立派な社ですね、内部を拝見出来ませんか」とのお話を取り継ぐと大夫様は心快く承知され、偉く使い古した倉鍵で横戸を明け正面大扉を一杯に開き電燈をつけ隅々迄良く見られるように配慮下された。

後で解かったのだが先生は俳額や撰者の名前でも解かったらとの積もりだったそうで……格天井の絵画に驚き「何うしてこの様な片田舎に、中央に活躍して居った著名の絵師達の作品があるのか」と一時は贗物かと思われたとか。

それから知野家に上がり、鵜森村の成り立ち、大庄屋々敷、名主屋敷の古昔物語、多少の変遷はあるがお宮を中心に五、六反から一町歩の屋敷持ちの家が今でも十指に及び、鵜森は近郷の羨望の的であったと、等々の話や又、先生の作者に関する解説由来を聞き、勇躍古川委員長（加茂市文化財調査審議会）にお願いして十一月十四日全審議委員から、合計四十五枚の格天井の絵画は勿論俳額・絵馬・社殿等現地視察を願い、氏子でもある渡辺俊栄氏（全国展、県展受賞作品多数）から撮影して貰い帆刈先生に詳しく調べて頂き、愈々大層な品物であると解かり市の文化財指定に向けて資料（神社の由緒来歴、社殿の造営年等）を揃えるようにとの指示で調査を始め、改めてこの社が大昔から村人や氏子から崇あがめ慈しまれて来たかが解かった。

社の由来書（寛政七卯年神太夫拾四代之孫鵜森村田代山城守平辛）に依ると

中古・水濁て爰彼に州土出たり、其中途の州に自然と榎木（一説に榿）生ひ広いろごり大木となる。時に鵜の鳥多く是れに榿すめり、已すでにあやしき事共（靈妙である）有もとによりて其許もとにほこらを立すなわち、則生田たつとの明神を崇あがび祭る……………

この記述は市史にある嘉禎二年「民家己に十数戸を数い」と云う記述と重なり、推考であるが生田の明神（神戸市にある官幣中社）とあるはこの人々の出自は近畿地方であらうか。又後に大庄屋役を勤める西方家（新発田五十公野在）の先祖は明応元年（一四九二）に鵜森に土着するが、同家過去帳に大祖・生国山城・俗名小西隼人とあるも興味深い。

神社由来書には神社と共に集落の栄枯盛衰を綴って居るが何故か社殿建築、その他の行事についての記述は何も無い。

文化二年から同十四年に懸けて格天井が完成した事（署名や年月日に依る）になるが、それより四十年前「若宮社大破建替奉賀廻り願書が、新発田藩御留守御在城行事（明和二酉、一七六五年）に載っており、赤渋・中之口・鶴森・小須戸・嘉茂組と実に広範囲な村々への奉賀許可願である。この様な計画を設け四十年近い歳月を掛けた集大成が、鄙には珍しく古風で立派な社殿であり見事な格天井となった。

中央で活躍した文人画家達、例えば「菊と野いばら」の勾田台嶺<sup>まがたたいれい</sup>は尾張の画家で文化二年秋三条に来遊して居り、「竹」の海保青陵<sup>かいほせいりょう</sup>は京都の住人で文化元年三条一ノ木戸小林家を訪ずれ教授している、「菊・竹」の釧雲泉<sup>くしろんせん</sup>は島原の南画家で文化八年出雲崎に滞留中急死した、等々著名な画家の動静情報を得て出向き書いて貰ったものと、鑑定考察された諸先生方の見解である。

二百数年前、永い歳月と費用を募り立派な文化遺産を残してくれた文化人がおり、このリーダーに協力した大勢の村人、氏子が居られた事を誇りに思うと共に改めて先人達に畏敬の念を覚える。

皆様の努力で平成十五年この格天井は市の文化財に指定されました。折角の文化財も遠隔の地では直接観れない市民の為に他の文化財も写真を資料館に大きく掲示頂き度いと願うものである。

### 鶴森若宮八幡宮 格天井画



勾 田 台 嶺



釧 雲 泉



海 保 青 陵

# 民俗資料館 平成17年度の歩み

## 1. 入館者数

平成17年4月

）

平成18年3月

	市内	市外	計	団体
大人	298名	495名	793名	3
小中学生	250名	174名	424名	11
計	548名	669名	1,217名	14

## 2. 資料収集の状況

本年度は 名の方から17件232点のご寄贈賜り御礼申し上げ、紹介させていただきます。

〈寄贈・寄託品名〉

- ・珪化木 ・さざれ石（石灰質角礫岩） ・味噌煮釜一式 ・電話機 ・台秤
- ・石油ランプ ・支那事変時の陸軍大尉の礼服 ・太平洋戦争時の軍服、国民服
- ・古銭（1624～1948） ・キセルケース ・角巻 ・川船河遺跡遺物

〈寄贈者ご芳名（敬称略）〉

- ・木津朝代 ・松田友平 ・中野政平 ・諸橋千恵子 ・田沢イク ・有本増三
- ・中林和芳 ・佐藤賢次

## 3. レファレンス・サービス及びアンケート調査（民俗資料館への問い合わせ）

### ① レファレンス・サービス（19件）

- ・「二宮金次郎の銅像が見聞できますか」 ・「岡ノ町出土古銭の写真について」
- ・「加茂市におけるマカロニ生産は商業ベースの面ではどうであったか」
- ・「加茂市内の旧石器時代の遺跡について」 ・「加茂松坂の由来について」
- ・「加茂の伝統文化で有名なものは、加茂の伝統料理は、加茂の特産物は」
- ・「埋蔵文化財包蔵地ではないでしょうか」の問い合わせ多数 ・その他

### ② アンケート・調査・依頼（46件）

- ・博物館園活動調査 ・有形の民俗文化財の保存と収集状況について
- ・古文書研究会と同好会アンケート
- ・収蔵物の管理についてのアンケート
- ・有形民俗文化財の保存・収集状況について
- ・「文化遺産オンライン」への参加及び文化遺産情報の提供について ・その他

## 4. 博物館実習生の受け入れ

- ・8月15日～23日 帝京大学文学部史学科 4年生2名
- 新潟大学人文学部地域文化課程 4年生1名
- 新潟大学大学院現代社会文化研究科 2年生1名

## 5. 館外活動

### ① 古文書講座

静かな加茂山の夜、古文書に勤しんで何時の間にか20年が過ぎました。これからも毎年、真剣に古文書に取り組んで行きましょう。 受講者延べ 184名

○ 日時 9月7日 9月13日 9月20日 9月27日 10月4日

各火曜日 午後7時～午後8時30分

○ 会場 加茂市民体育館内 公民館 第1研修室

○ 講師 加茂市文化財調査審議会委員

長谷川昭一 関 正平 佐藤賢次 溝口敏磨 丸山朝雄 各氏

○ 内容 共通テーマ『江戸時代の加茂の暮らし』

第1回「加茂・上条出入りの一件」資料を読む 長谷川昭一氏

- ・加茂市上条の相田吉雄氏所蔵の「本村雑用出入り一件書評儀留」という興味深い古文書を見つけ、講座題目を「 」の様に当日急遽変更しての講座。
- ・幕末のころ、加茂町上条新町の市場に関してのもめ事・酒造事件等について。
- ・もめ事を水原代官所に取り締まってもらうために五十九名が連印した。

第2回「江戸時代 町の生活用水、上江川の改修」関 正平氏

- ・一六六〇年ころ、加茂町上条地内に道半水門を設置し、加茂川より川水を引き入れ、町の生活用水とし、更に田方の大切な用水源とした。
- ・上江川が自然に埋まったことによる江筋の狭まりを自普請で掘りあげ・川幅を村の者を使い六尺に拡張する問題、字道半の取水口の経年劣化による大破等のことで加茂町庄屋や年寄などが出雲崎幕府役所へ修理許可願いを差し出したことを読む。

第3回「加茂の文禄検地帳を読む」佐藤 賢次氏

- ・秀吉は文禄四年の太閤検地を上杉氏と共同で実施したが、その後、上杉景勝は領内の年貢定納高見直しのため、慶長二年検地を実施した。
- ・同一地域の対比資料が少ないが、比較できる資料より加茂地方を考察する。  
[一反=三百歩→三百六十歩、定納高を貫高→石高]となるのであろうか。

第4回「明治維新と青海神社」溝口 敏磨氏

- ・越後国鎮座賀茂皇太神宮神主古川舎人同老官有本喜内同社人惣代市川近江 一以書附奉願上候一 大政御復古に依る民政局創立についての解説
- ・大政御復古につき由緒書を差し出したが、その後何の指示も無いことを大変心配、良い返事を持って越後に帰りたいのだが。



第5回「鵜森組大庄屋」西方家文書より 丸山 朝雄氏

- ・文政二卯年「末家林蔵申立書写」 西方丈八控 についての解説
- ・鵜森大庄屋西方家末家前組頭林蔵の知識・家柄・精勤（仕事ぶり）等から名主として相応しいと庄屋から郡奉行所へ申し立てが行われ、後日願いどおりに名主本役を申し渡された。

## ② 歴史講演会

加茂の町は地形的なものか水害と火災に多く見舞われている。昭和十年のこの大火災の時にも力強く立ち上がる姿が報道等でもうかがい知ることができる。参加者 60名

- 日 時 11月19日(土) 午後2時～午後4時
- 会 場 加茂市民体育館内 公民館 第1研修室
- 講 師 加茂市文化財調査審議委員 長谷川昭一氏
- 演 題 「昭和十年 加茂駅前・穀町の大火災について」

- ・加茂町の中心街で出火、強風下でもあったため一瞬の間に焼け野原と化し、被害二百五十戸、千五百坪と報道された。
- ・近隣市町村（見附・三条・白根・小須戸・新津・新潟）の各消防団の必死の活躍により三時間後に鎮火した。
- ・翌日、加茂町緊急議会を召集、その議事録を見ると一火災状況の報告・各戸への救済費用・羅災学童への学用品（以上は県羅災救護規程に依る）更に、保安上交通の便を考慮した道路拡張の議題等を話合っている。又、不況下の時代にも拘らず区画整理事業も行っている。



## ③ 特別歴史講演会

講師には、特に加茂市内に埋もれている文化財の発見・証明にご協力いただいています。また、加茂市史の編纂にも多大なご尽力・ご指導をいただいています。我々もこの機会に自分の町の文化を見直すきっかけにしたいものです。参加者 70名

- 日 時 平成17年3月18日(土) 午後2時～午後4時
- 会 場 加茂市文化会館 小ホール
- 講 師 新潟大学教育人間科学部教授 武田 光一氏
- 演 題 「加茂市の神社の天井画について」

- ・20カ所の寺社に天井画が見られるが、全て格天井画で文化年間（1804～1818）の間に書かれたものであり、作者は36名で一人で2、3枚書いているものもある。

### 確認できる作者

石川侃齋 釧雲泉 小栗十洲 谷文一 行田八海

勾田台嶺 松永昌言 内藤方盧 海保青陵 中田燦堂

小泉其明 大西圭齋 その他は地元の画家か

- ・この頃、白紙の画帖に書・画を書いてもらい、その数を競う風潮が地方でも盛んであった。
- ・地方に旅行に出た有名画家は、行く先々で優遇され、その地に絵を残していった。
- ・若宮八幡宮の天井絵は12名の有名画家が加茂に滞在したときに書き残された絵と地元の無名画家の絵を収集し、45枚の格天井としたものと思われる。



# 加茂市の遺跡 平成17年遺跡発掘調査について

加茂市教育委員会社会教育課係長 伊藤 秀和

本年の遺跡調査は、開発事業に関連した本調査が1遺跡を対象に行われた。

## 1. 馬越遺跡—古墳・古代・中世—

所在地 加茂市大字下条字馬越

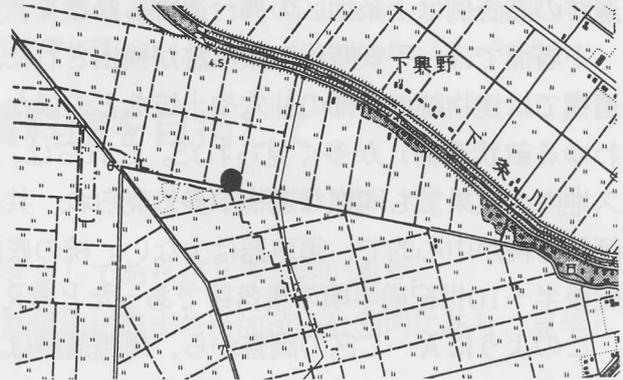
調査面積 約478㎡

調査期間 平成17年10月9日～11月10日

調査原因 吉津川地区ほ場整備事業

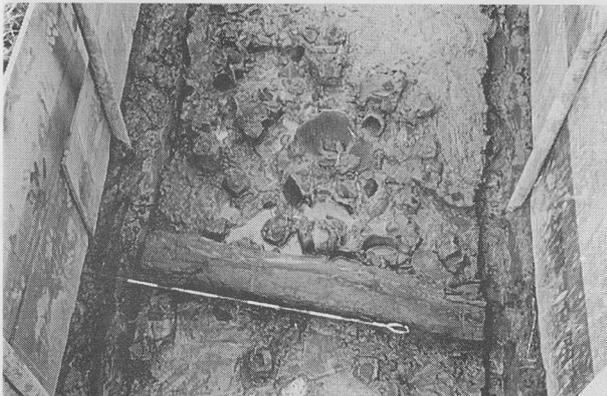
調査の概要 発掘調査はほ場整備事業における工事の中で、遺跡の破壊が免れない排水路工事区域を対象にして行われた。地点により

A、B、C地区に区分けされる。



馬越遺跡位置図 S = 1 / 25,000

A区は馬越遺跡推定範囲の北端部付近に位置する。溝、ピットなど少数の遺構が確認された。注目すべきは、自然河道と見られる落ち込みから古墳時代中期の土師器が多量に出土したことである。甕を中心とし壺、高杯が少量見られる。器形から5世紀後半頃と見られ、馬越遺跡の成立時期が古代以前であることが知られる。

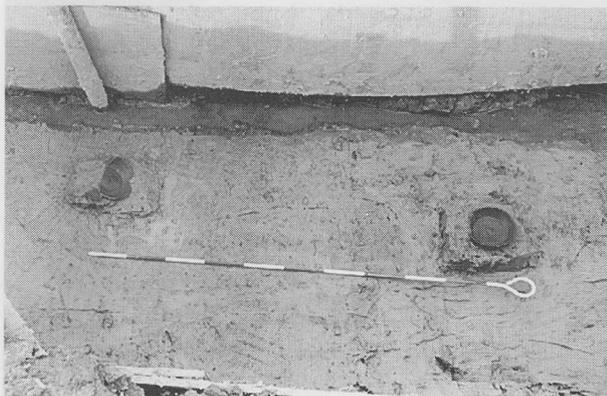


A区 土器出土状況



A区 完掘状況

B区では平安時代の集落跡の一部が検出され、溝を中心に建物跡の柱穴なども見られた。また、旧河川跡も見られ、土師器、須恵器を中心とした多くの遺物が出土した。



B区 土器出土状況

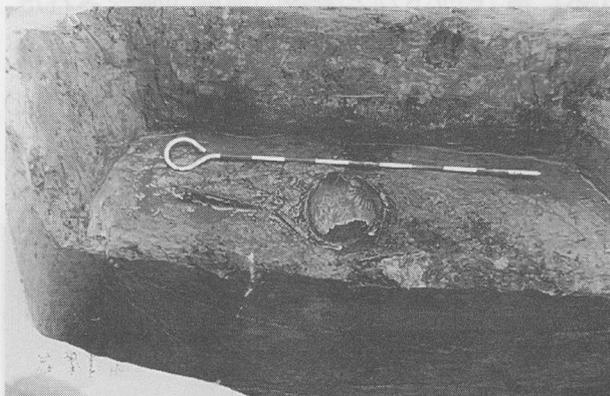


B区 完掘状況

C区では、一部分で間層を挟んで明確に遺構確認面が2枚認められた。現地表面から僅か20~30cmほど下（上層面）では、中世の集落跡が検出された。円形素掘りの井戸が7基検出され、埋め土から漆器の皿や箸状木製品などが出土した。薄い板に「南」と墨書された木簡も1点出土している。他にも、古銭や砥石などが出土している。これまでに加茂市における中世遺跡の調査例は上条地区の舞台遺跡しかなく、大変貴重な調査事例となった。

下層面では、平安時代の集落跡が検出された。遺構の密度が濃く、遺物も多量に出土した。遺構では建物跡の一部の柱穴や土坑などのほか、一定の間隔を持ち、同じ方向に延びる溝（いわゆる畝状遺構）が多く見られた。これらは、平成10・11年度に調査された403号線バイパス地内の成果でも同様な遺構が多く見られ、共通した性格を持つものと推測される。土器は土師器の椀が中心的で、須恵器は少ない。椀の底部に墨書された土器も数点見られる。概ね9世紀後半~10世紀前半頃の集落跡であったと考えられる。

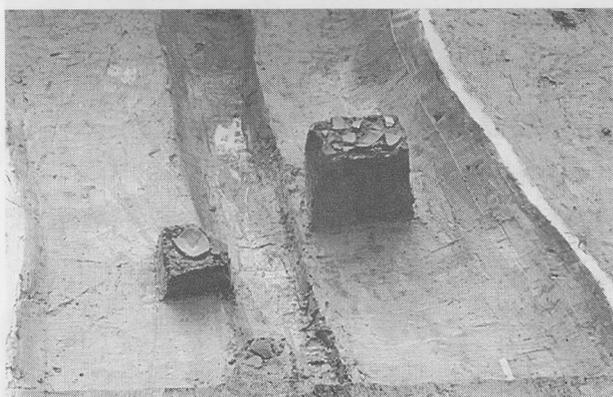
このようにA~C区の調査から、馬越遺跡は、古墳時代中期には人が生活を初め、しばらく時を経て奈良・平安時代に大規模な開発と発展が見られ、中世まで集落が営まれた極めて広大な遺跡であることが補強された。



C区上層面 遺物出土状況



C区上層面 完掘状況



C区下層面 遺物出土状況



C区下層面 溝群

### 編集後記

早すぎる冬の到来、当館も燃料費の高騰に呆れている間に平成17年度も雪解けと共に過ぎ去り、又話題豊富な新年度になろうとしています。

今後とも貴重な文化財を「人生の豊かさの追求」の為に役立てていこうではありませんか。

平成17年度「民俗資料館だより」第13号発刊に際し、ご多忙中にもかかわらず玉稿をお寄せいただいた丸山朝雄氏（加茂市文化財調査審議会委員）に深く感謝いたします。

今後とも皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。